

大事譬喩譚の二誕生説話

平等通昭

大事譬喩譚 (Mahāvastu-avadāna) には瞿曇佛 (Gautama-Buddha) と燃燈佛 (Dīpankara-Buddha) との二つの誕生説話があり、夫々が大體散文と韻文とで二回づゝ語られてゐる。

燃燈佛の誕生説話

Mahāvastu (Senart Ed.)

I. 193—229

父アルチャット王 (Arcit) の王都ディーパヴァティ (Dīpavati) の莊嚴を記す。燃燈菩薩 (Dīpankara Bodhisattva) は十二年間兜率天 (Tusita) に在天す。淨居天 (Suddhāvāsa-deva) が獨覺に在天を宣言し、教育する。

下天托生する四條件 (時・地域・大陸・家族)、家族の六十徳をあげ (初期佛傳記錄になし)。

瞿曇佛の誕生説話

Mahāvastu II. 1—45

兜率在天の時四條件 (時・場所・大陸・家) を考ふ。家族の六十徳をあげ。摩竭陀王 (Magadha)・拘薩羅王 (Kansubhi) 王が自國に生れるより招待する。佛本行集經に似

父・母 (十ヶ月七日生きる人) を選ぶ。ステイーバー (Sudhīpa) 妃を述べる長き韻文あり。

白象となつてパツシヤ (Pausa) 月の満月の日入胎。

菩薩入胎の宣言と地震あり、諸天神守護す。相師占う。(大乘的)

大梵天の間にステイーバー妃は轉輪王を懷胎すると言ひ、諸天はそれは佛陀なりと教う。

母の懷胎心理を述ぶ。

る。諸王國名を舉ぐ。

父として淨飯王 (Suddhodatta) を選ぶ。母は十ヶ月七日間生きること。迦毘羅 (Kapila) 城の摩耶 (Māyā) 夫人を撰ぶ。摩耶夫人の徳を嘆う。(佛本行集經の如き釋迦族の詳細な記述なし) 摩耶夫人持國天宮 (Dhātastira) 宮に行く。(韻文)

白象となり、パウシヤ月の満月の日入胎。

菩薩入胎時の異變 (六種に大地震動す)。諸天神守護す。相師占う。

大梵天の間に摩耶は轉輪王を懷胎すると言ひ、諸天はそれは佛なりと言う。

母の懷胎の心理を述ぶ。

龍王スバルナ (Suparna) 王、
四天王讃嘆す。

ステイパー、遊園に行くを欲
す。遊園の莊嚴記す。

右脇より生れ、(樹下、樹名の記
述なし。) 諸天右繞す。(入浴の
記事なし)

七歩歩む。(四方と書かず。) 二
流の水、天より落ち洗う。母苦
痛なし。

誕生偈『遂にこれ最後の生な
り。』女神禮拜す。

行列を作り歸城す。占相師マハ
ーシュヴァラ (Mahesvara)、
王宮に來る。三十二相 (凡て出
す) を見る。(普曜經に似る)

諸天供養す。諸天來訪す。

シャークヤン・スプーテイ、
王に使をやり、夫人を招く。
迦毘羅城の莊嚴を記す。藍毘
尼園に行列を作り行く。
無憂樹の枝を持ち、右脇より
出生、傷も痛もなし。

七歩歩む。(四方と書かず。)
出生後思索す。『智等しきも
のありや、我の如き生にて困
るものありや。』天より二流
の水降る。Asvattha 樹現る。
女神が讃嘆す。

誕生偈『これ遂に我が最後の
生なり。』孫陀羅難陀 (Sun-
daranda) 耶輸陀羅 (Ya-
sothara) 車匿 (Chandaka)
健陟 (Kantaka) チャンダ
(Canda) 生ず。

燃燈 (Dīpaṅkara) と命名。
(生涯中の他の記述に比し、誕
生記述は極めて詳し。)(仙士の
占相なし)

薩婆悉達多 (Sārvāstīd-
cha) と命名(韻文)。マハ
ーシュヴァラ天宮殿に來る。三
十二相現る。ウジャニーアシ
タ (Ujjani Asta) 占相す。
(三〇—四五頁)。天地の異變
を見、空中より宮殿に來る。
佛たるべしと豫言し、泣き、
佛の説法に會へぬことを悲し
む(散文と偈文にて繰返す)。
八十隨好出す。

この二誕生説話は佛名は違っているが、内容は殆んど同じく、類
型的である。内容は普曜經に近い。佛本所集經ではブッダチャリタ
(佛所行讃)の頌句が多く引用されているが、大事譬喻譚には出て
いない。長部尼柯耶の大本經 (mahāpāḍāna sutanta) の七佛記述
に準じているが、内容はこれより發達している。因緣譚 (Nidāna-
katha) とは構成は異なるが、佛傳の内容は餘り似ていない。大事は
自ら律に説出世部の屬する佛傳だと稱しており、従つて律藏の小品
(Mahāvagga) と關係が機構的には深い譯であるが、内容的には
より發達していて、關連が少い。何故に二の誕生説話をこれほど詳
しく出す必要があつたか、といふ疑問が起るが、記述編纂が茫大で
統制統一がなかつた爲であらうと思はれる。誕生説話から考へて
も、佛傳文獻としては後世成立し、發達したものである。